## 編集後記

◆「金色の　小さき鳥の　形して　銀杏散るなり夕日の丘に」の季節となりましたが，いかがおすごしでしょうか．
銀杏の葉は三畳紀の頃は切れ込みが多く，時代を経て現在のような扇形の美しい葉になったとのことです．同じ時代の地層からゴキブリの羽の化石も発見されていますが，長い間，植物化石として考えられてきたそうです．
◆地質関連の数値シミュレーションは他の分野に比べて遅れているとのことですが，発展させるためには地質現象の詳細な観察が必要であるような気がします．
◆四年に一度の万国地質学会議が今年は北京で開催され，日本からも多くの人が参加しました．今後，中国大陸の地質巡検の記事が紹介されると思いますのでご期待ください．
◆GPSは位置決定には非常に便利な機械で，地質屋にとって不可欠な道具になってきています．ルートマップも関心さえ持てば簡単に作れる時代になったのでしょうか．昔気質の地質屋としては少し寂しい気もしますが、これも技術の進歩でしょう．
◆日本の地質学の黎明期には外国人の指導を受けたことは事実です．鉱山開発はフランス人のコワニエの指導によってなされたとのことです．我々の仲間も彼等と同じ様な立場で外国に行っていますが、その足跡が語り継がれるような国際協力であればと思います．
◆アフリカでは鉱山地震という現象があり，国際共同研究が実施されているとのことです．日本の炭鉱では「やまはね」という現象がありましたが原理は似たようなものでしょうか．
◆さて，今月号は地下空間利用のためのコンピュータによる数値解析関連の記事を除けば外国シリーズの紙面構成となりました．この理由は，海外に共同研究に行く地質調査所の研究者が近年特に増加し，海外情報が多数投稿されたためです．環境問題におきましても，昔は，公害研究がありまして日本で起こっていることを中心に研究していたのですが，現在では地球全体の環境を考えなければならなくなってきています．我々の思考の中で地球が小さくなってきています．ふた昔前は外国に行く人も少なかったようですが，飛行機使用の日常化と日本経済の発展によって現在ではどなたでも気軽に外国に行けるようになり，活躍の場が広くなりました．その意味では外国の地質関連の事情を知ることも有益かと思いますので，ご一読ください．

（有田正史）

地質ニュース編集委員会
委員長：有田正史
副委員長：石井武政
委　員：佐藤興平・今井　登・村上文敏・大熊茂雄
顧　問：林　暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋　博
事務局：総務部業務課広報係（山崎　浩・谷田部信郎）
〒305 つくば市東1−1−3　地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局　Tel. 0298−54−3520
Fax. 0298−54−3504
地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第507号　1996年　11月号
定価　¥770　〒実費
1996年11月1日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
Tel.（03）3265−0951（代表）〒102
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　小宮山印刷工業株式会社

©1996 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります．品切れの際は店頭で注文してください．